



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
2月17日
発行

第 167 回

「日銀新総裁への期待」

～銀行株に注目～

日銀ウォッチャーへのアンケート記事

去る2月16日の日本経済新聞は、日銀ウォッチャー20人による日銀の政策見直しのアンケート調査の結果を掲載しました。結果は、20人全員が年内に見直しというもので現状維持の回答はなかったようです。私もそうですが、多くの識者が「現在の日銀の政策には修正すべき点がある」と考えている、ということを示すものといえるでしょう。

見直しが予想されている政策としては、長期金利操作やマイナス金利の解除、日本株ETFの購入などです。これらはいずれも日銀が直接市場に介入する、中央銀行としては異例の措置なので、あまり評判が良くないようです。植田和男新総裁が就任すれば、こうした措置については段階的に解消されることになると思います。このようにして、植田氏は新生日銀の改革を進めていくことになるとは思います。それは、金融機関の収益力の低下です。

地銀の経営統合

長く続いた低金利は銀行から収益力を奪いました。特に地方では人口減なども伴い、収益機会を見つけることが難しくなっているように思います。2月15日の日本経済新聞は、地銀の債権の含み損が三ヶ月で倍増、1.4兆円に達した、と報じました。長野では八十二銀行と長野銀行が経営統合で合意しました。もし、この地銀の経営統合の問題などで植田氏が時間を取られることがあれば、その分、日銀の改革が遅くなることもあるかもしれません。

ただ、場合によっては逆にこの問題が追い風となることも考えられます。そもそも、地銀が窮地に立たされた原因の一つは、日銀が異次元緩和を続けるために金利上昇を阻止したことにある、といえます。であれば、日銀内部においても「金利上昇を阻止するのはおかしいのでは」という声が高まりそうです。そうなれば、植田氏にとっても好都合でしょう。また、地銀にとっても助けになると思われます。

私は、植田氏とこれからの日銀改革について以上のように考えていますが、株式市場への影響については、日銀が市場原理を今より重視するようになれば望ましい、と考えています。その場合、金利の上昇が予想されるので銀行株などが恩恵を受ける、との見方です。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。